

## ノーベル物理学賞受賞者シンポ

# 米の2氏参加

## 全国的な理解広げる

東京で8月5日

子の標準理論」と呼ばれる理論への貢献で1979年に受賞。現在の素粒子物理学の立役者とされ、誘致実現に期待を寄せている。

山下特任教授はILCについて全国的な理解を得ることを喫緊の課題に挙げ「日本政府が前向きな態度表明に一步を踏み出せるようシンポジウムに向けて機運を高めていく」と語った。

講演に先立ち、県ILC推進協議会(会長・谷村邦久県商工会議所連合会長)の役員会を開催。7月実施

予定の国会議員連盟の訪米に谷村会長が参加して地元への熱意や受け入れ態勢の整備状況を伝え、国際交渉を支援する本年度事業計画を示した。

谷村会長は「今年が誘致実現に向けた最後のヤマ場だ。みなさんと一緒に全力を尽くす」とあいさつ。ILCの早期実現を政府に求める要望など4議案を承認した。

役員改選は谷村会長と5人の副会長を再任した。任期は2年間。

東京大素粒子物理国際研究センターの山下了特任教授は13日、盛岡市内で講演し、都内で8月に開催するノーベル物理学賞受賞者によるシンポジウムに、本県が誘致を目指す国際リニアコライダー(ILC)と関わりが深いバリー・バリッシュ氏(米)とシエルドン・クラショウ氏(同)が参加すると明らかにした。誘致に対する日本政府の態度表明は年内が期限とされ、誘致活動は今が正念場。シンポジウムに向けて機運を高め、理解の輪を全国に広げる。

山下特任教授によると、シンポジウムは教育機関や誘致関連団体などが協力



東北誘致

し、お茶の水女子大を会場に8月5日開催。ILCへの全国的な理解を促すとともに、有名研究者が実現に向けてメッセージを発信する。日本の受賞者とも参加調整を行っている。重力波研究で昨年受賞し